



枇杷の実のおくりもの

校長 野尻 史子

5月23日から三日間、5年生と岩井学園（千葉県南房総市）へ移動教室に出かけました。初日は、あいにくの雨模様でしたが、二日目以降は晴天に恵まれ、鋸山の登山、岩井海岸での貝拾い、星空観察など、たっぷり自然に触れることができました。朝は二日とも海岸まで歩き、海を見ながら朝会、ラジオ体操をして気持ちのよい一日のスタートを切りました。岩井学園近くの地域は房州枇杷の産地でもあり、海岸へ行く道すがら、どの家のお庭にも、枇杷の実が色づいているのを見かけました。

私には、そんな枇杷の実をみるたび思い出される、数年前のうれしい出来事があります。

6月のある日、「あの給食の枇杷が、今年初めて実を結びました。」と、卒業して何年も経つAさんの保護者の方から、器に盛られたいくつもの枇杷の実の写真とともにメッセージをいただきました。

私は、Aさんの1年生の時の担任でした。Aさんは、給食に出た枇杷の種の、つやつやとした色や形をととても気に入り、宝物のように手に握って、「家に持って帰りたい。」「お母さんに見せたい。」と、私のところへやってきて言いました。「家の庭に埋めたら、芽が出て大きくなって、いつか枇杷になったら、この種はもっとたくさんに増えるかもしれないね。」と話して、私は家に持ち帰らせました。そして、家に帰ったAさんは、その日のうちに庭の隅に一粒の枇杷の種を埋めたのです。

——— それから11年、枇杷はどんどん成長を続け、見上げるような木に成長したそうですが、それまでは一度も実をつけませんでした。それがその年、とうとう実を結び、Aさんの家の食卓に飾られたのです。私はこのわずか数行のお知らせを、本当にうれしく受け取りました。私を覚えていてくださったことへの感謝とともに、Aさんのご家族が、お子様の小さな思いや願いを大切に受け止め、毎年家族みんなで枇杷の木に心を寄せ、楽しみにしたり残念がったりしてこられたことを想い、そのご家族のあたたかさ、心の豊かさをとてもすてきだと思いました。そして枇杷の実を見るたびに、「もっともっと、子供たちの思いや願いを大切にしよう。」と思うのです。あの枇杷の実は、私にとって、Aさんご家族からもらった、大切なおくりものです。

子供たちは、日々の生活の中で、不思議に思うことや、チャレンジしてみたいくなることに数多く出会うことと思います。その中には、いつかすてきな実を結ぶ小さな種があるかもしれません。1年生のAさんのように、

「この種からどんな芽が出てくるのかな」「本当に、びわがたくさんなる木が育つか」と、不思議に思ったり試してみたいくなったりする気持ちを応援し、手伝うことを厭わない、いっしょに楽しみに見守る、そんな大人であり続けたいと思っています。

岩淵の「ち」は「力いっぱい チャレンジ」です。皆様もぜひ、岩淵小の子供たちのチャレンジを応援してください。よろしく願いいたします。

